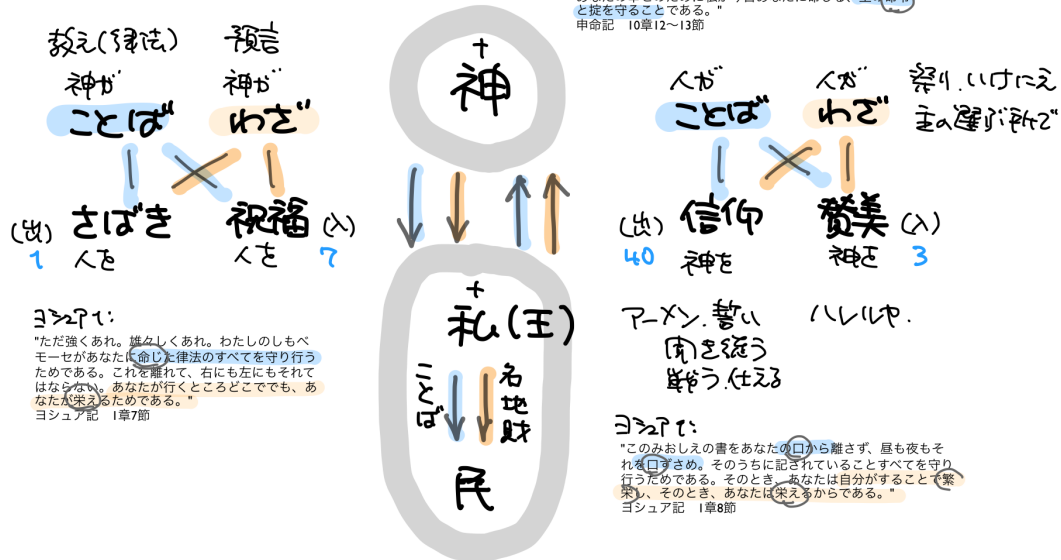




アブラハム契約・ダビデ契約

神と民との契約関係図

相続—奉獻
与えあう



神様と民との契約関係図というのを書いてみました。

アブラハムの契約とダビデの契約、アブラハムの契約が与えられて、エジプトから出てカナン地の地に入るまでと、ペリシテから出る、古い天幕制度から出て、エルサレムに神殿が建てられるというところ。この大きなストーリーの流れをなかなか把握しにくい。サムエル記と歴代誌と列王記が同じことが違う書物に書かれていて、何章なのかというのも混乱するし、出エジプト記の何章、申命記何章と言われても、なかなか思い出しにくいということで、もう一度流れを見ようということでやり始めました。

特に、ことばの流れとして見たらどうかということ、神様が与えたことばと、民側が神様にお返しすることば、歌ですね。それと、歌とことばで、民にリーダーが相続するところということで、上から下、下から上、そしてとなりへということばの流れで見ると、この歌とか、契約のことば、最後のことばなんていうのがわかりやすいのではないかなと思ってやろうとしたのです。

けれども、いや、これは、ことばとやっぱり、一緒にわざも見ないと、話が難しくなってしまうということ。神様と私、(…詩篇をやっていますから、私と言っていますけれど、「私」、歌っている人はだいたい王様だったりします) 神様とリーダーとその民という契約関係をそれぞれ見て、この流れ(アブラハム契約、ダビデ契約／モーセ

の歌、ダビデの歌の図)を把握するのが良いのではないかとということで、この図(神様と民との契約関係図)を作りました。

関係が、「ことばとわざ」「神様からことば」「神様からわざ」「人がことば」「人がわざ」と。私が民にことばを相続し、名前と土地と財産を相続する。こちら(私、民)、ことばとわざということで、ことばとわざ、ことばとわざという違いと、さばきと祝福、善悪をさばくことと繁栄する、祝福を得ること。その違いがあるだろうということで、その2つ、信仰の戦いと戦いを終えて受ける最終的なものというようなことで分けられるだろうと。それぞれ「ことば」に対してと「わざ」に対してということがあるよねと。「神様が人をさばくことば」「神様が人を祝福することば」「神様が人をさばくわざ」「神様が人を祝福するわざ」という4つがこの組み合わせで言えるのではないかと。

「人が神様を信じているということば」アーメンとか誓いとか聞き従うとか、いつも口から離さない。「人が神様を賛美することば」「人が神様を信じて戦う、仕えるわざ」「人が神様を賛美するわざ」これは、祭り、いけにえ、主が選ぶ場所でということで、こちら(右側)も4つの面で見ることができるといえるように分けました。ことばと言っているほうは「教え」。わざと言っているほうは「預言」と言えるのかなと見ています。

申命記10章12-13節「イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求められておられるものは何か。それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、その全ての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くして、あなたの主に仕えて、幸いを得る」そのためにということを言っている箇所がありますから、この主を恐れる、信じる、主の道に歩んで主を愛して仕える。これが、ここの主のことば、命令に対しての応答というところなのでしょう。命令を守ることを主を恐れて道に歩んで愛して仕えるということであらわされている箇所だということが言えると思います。

その命令を受けた者たちは、主が選ぶ場所で、そこにいった時には、祭りを行いなさい、いけにえを捧げなさいということがずっと申命記で言われています。ヨシュア記で、モーセが民に、モーセがヨシュアに、ヨシュアが民に相続するところです。特にヨシュアが民にというところには、(ヨシュア記1章)「強くあれ、雄々しくあって命令を守れ、それは栄えるためです。律法の書を口から離さず、口ずさみなさい、守り行いなさい、そしたら、繁栄して栄えることができます」と言っているヨシュア記のところがありませんけれど、どちらかというと、こちら(神様・左)側、命じた命令を守り行うならば、行くところどこでも栄えます。口から離さないでください、そうしたら、自分のすることで繁栄して栄えますということを言っていますから、神様側と人側ということを2度繰り返しているような、(ヨシュア記1章)7節と8節ということなのかもしれません。

さばきと言っているほうは、出るほうです。祝福と言っているほうは、結論のほう、成就のほうですから、エジプトから出る、そして、カナンに入る。出る、入る。入って祝福されて、その祝福をもって、今度戦っていくということで、こちら(人側)も出る、出る。1,3,40,7に該当しているかもしれませんが、(アブラハム契約、ダビデ契約／モーセの歌、ダビデの歌の図)1(エジプト)と7(カナン)、1(ペリシテ・エフライム)と7(神殿・イスラエル)と。

間に、こちら(上段)は、律法が強調され、こちら(下段)は、預言が強調されているのかなということで、ここ(神様と民との契約関係図)にこのように書いてあります。というように大きな関係を見ながら、このストーリー(アブラハム契約、ダビデ契約／モーセ

の歌、ダビデの歌)を把握するのが良いのではないかと、このつながり(神様と民との契約関係図)を確認してみました。